

収穫の喜び実感 声合わせ餅つき

新潟県長岡市立
表町小

新潟県長岡市立表町小学校の2年生24人は、自分たちで栽培したもち米の餅つきをした。世話になった農家や地域住民、保護者を招き、つきたての餅を約50人で味わい、作物を育てる大変さや収穫の喜びを学んだ。児童は、校庭で栽培に挑戦し、もち米18キを収穫した。

「わくわくフェニックス新年会」と銘打ち、小

正月に合わせて開いたもの。児童らにとっては初めての餅つき。もち米12キを使い、みんなで声を合わせてきねを振り、餅つきを楽しんだ。きな粉、あんこ、砂糖しょうゆの3種類の味で地元の農家や保護者をもてなした。児童代表の大高愛梨さん(8)は「みんなで作ったつきたての餅は、おいしかった」と笑顔で話した。

同校は、市内の中心部に位置する。校庭に水田100平方メートルを復活させ、もち米「わらぼうし」を栽培した。児童は、土



掛け声に合わせて元気にきねを振り下ろす児童

づくりから収穫・はき掛け、足踏み式脱穀機での脱穀などを体験した。丸山吉次校長は「児童が力を合わせ、大切に育ててくれてうれしい。食べ物に関心を持ってもらう学習ができた」と話した。